

プラン体系に対する第2回部会の御意見の反映について

| 指摘箇所 (修正前) | 第2回部会における御意見 | 修正内容 |
|---------------|---|---|
| 2050年のあるべき姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性が失われれば50年後、京都が消滅する」, 「自然こそ、生物多様性こそが京都を支えている」といった切り口で生物多様性の重要性を伝えるべき。 | <p>「京都における生物多様性の重要性」という項目を新たに設定し、京都における生物多様性の重要性と危機感の共有を図る。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の問題を知っている、自分ごととして捉えられない、つまり、危機感を持ってない、切実に感じられないことが、生物多様性の問題の本質である。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「京都ならではの」の要素がない。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・スリムに端的に、かつポイントを入れていくことが大事である。 | <p>「2050年のあるべき姿」を以下のとおり修正する。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「文化」と「生活」という言葉はあるが「産業」のイメージがない。社会全体として営み続けていけるというイメージを入れた方がよい。 | <p><2050年のあるべき姿(案)> 自然を慈しみ、自然に感謝し、自然と共に、京都の暮らし・文化・産業が継承・発展される「自然共生のまち・京都」</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・主語は「行政」ではなく「私たち(市民が主人公)」とする。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・現実を見据えて、こうあるべきだと、あってほしいということをも具体化して書くべき。 | <p>「2050年までに達成すべきこと」という項目を新たに設定し、2050年までの具体的な目標を記載する。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「身近に感じられる」、「しっかり引き継がれる」では、表現がフワッとしているので、定量性があると、切実感に繋がるのではないか。 | |
| 2030年目標・基本戦略 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本戦略と2030年度目標が二重構造となっており、類似の内容である。 | <p>「戦略」と「2030年度目標」の位置づけを見直す。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・戦略について、国の計画とほとんど同じで、京都らしくない。 | <p>1つ目の目標を「京都らしさを支える生物多様性の持続的な利用を可能にする。」とする。</p> |